



平成29年5月1日(月)

藤 棚

第337号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

自学自習の姿勢を、いかにして確立するか

校長 小川義男

人間に生まれついでる能力差はない。だが、努力した者としなかつた者の違ひは、君の人生に決定的な影響を及ぼす。

大学の収容定員数が多すぎる。大卒に対する需要は、そんなに多くはないのだ。できれば、自分と同等、もしくは自分以上の人々で構成される集団に帰属したいものである。だが憶えておきたまえ。努力しなければ、君がこれまで経験したことのない低質な集団に帰属する可能性もあるのだ。普通の生活で、これまで経験したことのない、極めて水準の低い人々と、四年間、暮らさねばならなくなる可能性もある。幼稚園でも、小学校でも、勿論中学校、高等学校でも、経験したことのない低質な集団と共に生きねばならないのだ。人間は、別に優秀でなければならぬわけではない。学力などなくとも、立派な人間はいくらもいる。学問がすべてではない。しかし、私立中学に学び、高等学校に学ぶ以上、大いに努力して、少しでも学習条件の良いところで学ぶ方が、君自身の人間的、学問的成長に資する事は、確実だ。

自分の可能性に自信を持て。現在の学力に関係なく、君は確実に大成できる。

大切なのは、自学自習の姿勢を確立する事だが、それも、割合簡単に取得できる。

どうやって学ぶか。これが簡単ではない。矢張り、先輩や指導者、教師の助言が必要になるかも知れない。その点は、担任に相談するのが一番良い。校長室を訪れてくれても良い。自ら進んで、主体的、積極的に指導を求めることが大切だ。

世界史の先生に教えられたが、世界史は、フランス革命以降から出題されるのが七割だそうである。日本史なら、関ヶ原の戦い以降ということになるろうか。この範囲を、繰り返し繰り返し読み、かつ考えるのがよい。十回も読んだら、カードやサブノートにまとめて見るのも良いだろう。これは、中学一年生や、高校に入学した直後から積み上げて行くのが良い。世界史に関する面白そうな本を四、五冊買いためて、読んでみるのも良い。

英語は大学入試の「二百三高地」である。でも、この克服は簡単だ。中学生にも関係があるから、しっかり読んで欲しい。

高等学校のリーダー CROWN には I、II、III の三冊がある。その中に I と II には Grammar が

ある。だが、これがⅢにはないのだ。面白いね。つまり Grammar は I と II、それぞれ 10 ページずつ、合計 20 ページで、英文法の基本的事項は尽くされてしまっているのだ。尽くされてしまっているからⅢには、これがない。ある意味でⅢは、「読み物」として構成されているとも言えるだろう。

この 20 ページを、熟読、熟考、「眼光紙背に徹す」の構えで勉強すれば、英文法に分からないことはないことになる。私は、これをノートの左端に英文、右端に和文を書いて、暗誦すること、和文を見て英文を書き、和文を見て英文を朗唱することを繰り返せば、諸君の英語の底力は、ぐんと伸びると主張している。

今ひとつ、センター試験も大学入試も、CROWN の I、II さえ完璧にやれば、原理的には満点を獲得できる。入学試験でも、満点かどうかはともかく、確実に入試に合格できると確信している。

中学生は、教科書を学ぶと共に、高校の分も先取りして学ぶと良い。

余力があれば、中央図書館にも中学生専用図書館にも、比較的平易な英語の読み物が千冊以上用意されている。その中の、自分に相応しい物に目を通すと良い。電車の中で「原書」を読んだりしたら、かっこいいぞ。

科学的態度で健康を守れ

肉 魚 野菜 果物を、バランス良く食べる事が大切だ。

睡眠不足は万病の元、熟睡は日中の運動から生まれる。学校まで徒歩で通うというのは、何よりの健康法になる。

風邪は万病の元、睡眠不足は風邪の最大の原因になる。

部屋に陽光を導き込むことは何より大切。私は、寝室の窓は、必ずカーテンを開け、太陽が室内深くまで照らしてくれるよう努力している。校長室も同様だ。

意外に忘れられやすいのは、湿度の維持である。状況によっては、加湿器を用いるのがよい。噴霧式の加湿器は駄目。カビが発生する。沸騰した湯気を吐き出すものが良い。私は、これを居間にも寝室にも用意し、メーターで、その日の湿度に神経質なくらい気を配っている。

風呂上がりには、肘から先、膝から下に冷水をかける。私が風邪で寝込んだりしないのは、そのためもあるのではないだろうか。

知らない言葉に出会ったら辞書を引け

語彙が貧困な者は尊敬されない。他人から侮られる。知らない言葉、不確かな言葉に出会ったら、必ず辞書を引け。今は、広辞苑をかついで歩かなければならない時代ではない。電子辞書には、広辞苑、英和辞典どころか、百科事典までついている。トラック一台分くらいの「文献」を、ポケットや鞆に忍ばせることができる時代なのだ。スマホなどで下らぬ遊びに時を費やしているときではない。寸暇を惜しめ。常に自らを向上させる姿勢を失うな。

私の高校時代には、「自己完成」という言葉が、若者すべてに強く意識されていた。君も、自らを向上させることに、強い関心を持て。人生は短く、自らを完成させる道は遠い。限りある人生、決して長くはない青春だ。自らに厳しく学び続けよ。

学習方法、読書方法については、いつでも私の所に相談に来て欲しい。

新入生の抱負

4月8日、入学式を終え、高等部406人 中等部47人それぞれが希望を抱き、本校に入学しました。ここに新入生の抱負を掲載します。

中等部

1組 久保田 有咲 (入間市立藤沢東小学校出身)

本校に入学して、決めた目標が二つあります。

一つ目は、苦手な数学を得意にすることです。数学は好きな教科ではありますが、実はあまり得意ではありません。ですから勉強の中で数学を重視しようと思います。

二つ目は、自分の長所を活かしたことをたくさんすることです。みんなの中心になったり、人前に出て色々なことをやることも好きです。また私はどんな時でも誰とでも仲良くできます。この長所をいつも忘れず、体育祭や狭丘祭等の行事で活躍したり、ルーム長としてみんなをまとめたりしていこうと思っています。

これから部活動も始まります。勉強も小学校より難しくなります。うまく両立できるように頑張りたいです。

2組 水野 仁美 (所沢市立仲栄小学校出身)

本校に入学した私の一番の目標は「英検1級を取る事」です。

小学4年生の頃、「外国に行って色々な人と話せるようになりたい」という思いから、英語を習い始めました。それを通じ、英語を勉強することが面白くなり、この目標を立てました。そのためにも「部活と勉強を両立させること」が大切です。この学校は勉強のペースが早く、部活動ばかりやってしまうと授業に追いつかなくなってしまうため、頑張りたいと思いました。

この目標に向かって日々努力し、中学校・高等学校と6年間頑張っていきます。

高等部

I類(外進生) A組 武藤 結衣 (所沢市立美原中学校出身)

本校に入学したときに抱いた抱負は二つある。

一つは、今年度中に英検2級、さらに準1級を取得することだ。グローバル化が進む現代において、英検で試される読解力や表現力、会話力は必ず役に立つ。私は将来外交官になりたい。だから、英語力は必ず身につけねばならない。そのために、日々単語を30個は覚え、声に出して読む習慣をつけたい。

もう一つは、勉強と部活動の両立、けじめをつける力を養うことだ。中学校時代の私は勉強も部活動も中途半端に行い、また、勉強をしなくてはならないのに長々とゲームをするなど、いつまでも切り替えができなかった。だから私は充実した高校生活を送るために書道部に所属し、毎日新たなことを吸収していく中で、けじめや切り替えができるように努力していく。

I 類（内進生）B 組 小野田 豪暉 （狭山ヶ丘高等学校附属中学校出身）

高校生になったら、「やらない後悔よりやった上での後悔」をモットーに過ごしていきたい。中学生のときは時間の束縛が生じるからなど様々な理由をつけては行動に移す前にあきらめ、後悔するということが多かった。しかし、高校入学後は本校の校訓である「事にあたって意義を感じよ」のように、生徒会役員に立候補するなど、何事にも挑戦し、一つ一つ小さなことからでも学べるよう努めていこうと考えている。

また、3年後の大学受験で多くの選択肢が得られるように、今から予習・授業・復習を一つも怠ることなく行い、加えて問題集等で受験に必要なスキルを身につけられるよう日々コツコツと学業を修めていくことを決意した。

生活面では、端的に物事を表現することでコミュニケーション能力を養い、日々の人との関わりで社会性を鍛え、全てのことに全力で立ち向かう心構えと体力のトレーニングにも努めていく。高校3年間、後悔のないよう日々全力で過ごしていきたい。

II 類 F 組 藤川 泰輝 （所沢市立狭山ヶ丘中学校出身）

本校に入学したのは、英語を頑張りたいという強い気持ちがあったからです。3年間の目標は、現地で通用する英語を話せるようになる、ということです。もちろん英語だけでなく、他の教科もまんべんなく学び、自主学习毎日3時間を目安に日々の積み重ねを大切にします。

また、部活動では、新しいことに挑戦しようと思い、合気道部への入部を決心しました。良き日本の文化に浸りながら、全力で取り組み、文武両道を目指して規律ある生活を送れるように精進していきます。

中学校での経験から、3年間という月日はとても短いと考えています。だから一日一日を大切に、無駄な時間をなくして有意義な時間を少しでも多く過ごすために、効率的な時間の使い方をして、内容の濃い3年間を過ごしていくつもりです。

III 類 H 組 嘉松 樹美 （所沢市立小手指中学校出身）

この1年間で頑張りたいことは二つあります。

一つ目は勉強と部活動の両立です。私は勉強があまり得意ではありません。だから、授業の予習、復習をして授業についていけるようにしたいです。また部活動では吹奏楽に仮入部中です。中学校での部活動では良い結果が残せませんでした。だから、基礎練習とパート練習に加えて自主練習もしっかりと取り組み、全国大会を目指します。また先輩たちのように上手に吹けるようにコツコツ地道に練習していきます。

二つ目は進路を少しずつ考えることです。私はまだ進路や将来の夢がはっきりしていません。まずは日頃から自分はどんな職業に向いているのか、また自分の長所を生かした仕事とは何かを考える必要があるはずだと考えています。

この1年間、これら二つの目標を達成できるよう、日々頑張ります。